

ジャパンプルューカーボン プロジェクト

吉川京二代表取締役

森林などのグリーンカーボン生態系よりも二酸化炭素（CO₂）吸収量が高いと注目されるブルーカーボン生態系。それは「海の森」とも言われている。脱炭素社会を目指す今、海洋生態系を守りながら二酸化炭素（CO₂）の新たな吸収源となるブルーカーボンは海を四方に囲まれている日本にとっては有効な切り札となる。2021年、この豊かな海の森作りのために設立されたジャパンプルューカーボンプロジェクト（JBP）の吉川京二代表取締役に活動内容と展望を聞いた。

2025年3月まで北海道釧路西港で藻場の再生実証実験を行う

脱炭素社会を目指す海洋で、藻場などに光合成が目的で吸収される二酸化炭素（CO₂）をブルーカーボンという。すでに15年前の2009年に国連環境計画（UNEP）が報告書「ブルーカーボン」をまとめ、二酸化炭素（CO₂）の吸収源として海の可能性を提示。「ブルーカーボンにより、年間総排出量のおよそ0.5%を吸収・隔離できる」「温暖化を1.5℃に抑えるために必要な削減量の2.5%はブルーカーボン生態系による吸収減対策で達成可能」として、その期待値は大きい。

ジャパンプルューカーボンプロジェクトは、吉川氏が経営コンサルタントとして活動中に、縁あった北海道浜中町のウニ漁をする平川水産から「ブルーカーボンというこれから日本にとっ

て大切な事業があるが何か貢献はできないか」との相談を受け調査。「沿岸域における磯焼けで海草・海藻が消滅し魚は取れなくなってきている」ことを知り、「当初ボランティアでの活動を考えたが、持続可能な活動にするには法人組織がベターだと決断した」（吉川代表取締役）という経緯を持つ。

世界規模で年間約100億トンの二酸化炭素（CO₂）が排出されるが、海が25億トン吸収し、そのうちの約11億トンほどを浅瀬の藻場が吸収している。しかし、近年その藻場がなくなり海水温も上がってきている。日本のブルーカーボン生態系には①海草の藻場（アマモ場）②海藻の藻場（コンブ、カジメ等の藻場やちぎれコンブなどの流れ藻）③湿地・干潟④マングローブ林がある。ジャパンプルューカーボンプロジェクトは「ウニ漁業60年の北海道浜中町・平川水産」と「海の清掃・再生30年の北海道厚岸町・松井商会」の協力を得て、2021年9月に「北海道ブルーカーボンプロジェクト」を設立。さらに「全国」「海外」からの要望に応えるべく、本社を北海道・浜中町から、東京に移し「ジャパンプルューカーボンプロジェクト」に、2021年12月に社名を変更し現在に至っている。

具体的な活動としては、北海道釧路西港での藻場を再生する実証実験。2025年5月までの3年間の期間ではかの海藻より吸収量の多い昆布を養殖させる手法など検証していくものだ。ジ

ジャパンブルーカーボンプロジェクトは「漁業協同組合」「行政（市町村）」「パートナー企業」の三位一体となった活動で、三者それぞれにメリットをもたらすチーム作りにその独自性を持つ。「漁業協同組合には藻場の再生やブルーカーボンクレジットの配分金など。行政にはブルーカーボン実施によるカーボンニュートラル達成への一助、ブランド化と活性化。そしてパートナー企業は脱炭素社会を目指す企業としてのSDGs活動の一環など」(同)だ。鋼路の場合は鋼路ガスがパートナー企業として参画している。

ジャパンブルーカーボンプロジェクトではこの鋼路をはじめ富山、千葉、愛媛、青森、などでも実証実験を展開していく計画で、脱炭素社会を目指していく。

ブリヂストン時代に学んだ“仕掛けなければ道は開かれない”

実は吉川氏はブリヂストンの小売チェーン網作りで活躍されていた実績を持つ。1968年にブリヂストンに入社。営業やマーケティング分野を担当。タイヤ館業態開発、コックピット事業部長、小売りチェーン事業部長、東北支店長兼

北海道支店長など歴任、2001年に退社。その間ブリヂストンが世界的企業になるために企業革新を図る「YMCA（ヤング・マニア・クリエイティブ・アプローチ）戦略」を展開。

それは今のブリヂストンの根幹となる戦略で①若い世代に受け入れられるブリヂストンブランド・企業イメージの向上②ハイグレードポジションに位置するタイヤブランド「レグノ」の開発③モータースポーツへの参戦④タイヤ店の再編の4つから成り立っていた。「私はタイヤ店の再編に携わっていたが、この時にマーケティングと経営戦略を統合して戦略化することの重要性を知った。メーカーといえども、モノを作るだけではだめで、モノを売る仕組みも作らなければいけないと考え国内で初めてのタイヤメーカーによる小売チェーン網作りを実践し、日本ではコックピット・タイヤ館、海外では、タイでコックピット、中国では車の翼を展開。このタイヤ小売り店作りを通じて、ブリヂストンが世界的企業へ発展した一翼を担った。“仕掛けなければ道は開かれない”ということブリヂストン時代に学んだ。それが現在でもブルーカーボン事業の推進力となっている」と思い返している。

PICK UP 一般社団法人「豊かな海の森創り」について

ジャパンブルーカーボンプロジェクト（JBP）の代表である吉川氏は2023年10月、一般社団法人「豊かな海の森創り」を設立した。

同団体は「未来に子供たちへ豊かな海を残したい」をビジョンに掲げ、

- ①地球温暖化の防止、脱炭素化に貢献します。
- ②CO₂を吸収し、生物の多様化を育む、豊かな海の森を保全・再生します。
- ③地域経済活性化に貢献します。

一を活動の約束として「未来の子どもたちに豊かな海を残したい」を実現する活動をしていく。

具体的なミッションとしては、ブルーカーボン活動に積極的に取り組む。カーボンニュートラルの達成に貢献するように、「海の森保全活動」と「海の森再生活動」を活動の約束として、①地球

温暖化防止、脱炭素化に貢献する②CO₂を吸収し、生物の多様化を育む、豊かな海の保全、再生をする③地域経済活性化に貢献する、の実現を目指す。

吉川氏は「ようやく注目を浴び始めたブルーカーボンだが、多くの人たちに共感を得られる活動として継続的に実行していく事が必要となる。「未来の子供たちへ豊かな海を残したい」をビジョンにJBPの活動とは別に、目的に賛同いただける会員の会費等により海の保全・再生活動を推進していきたい」とし、法人並びに個人に支援と協力を呼び掛けている。

■問合せ先

e-mail : pfc-info@productive-sea-forest-creation.com